

ミツカン水の文化センター セミナー

木で作られた水道管

江戸時代のインフラを支えた上水道のかたちを 開催しました！

2022年(令和4)11月23日、セミナー「木で作られた水道管～江戸時代のインフラを支えた上水道のかたち～」を開催しました。

講師は、東京都水道歴史館 企画調査責任者の金子智さんと、東京都埋蔵文化財センター 主任調査研究員の鈴木伸哉さんです。お二人には、2022年春にミツカングループが所蔵する愛知県半田市のミツカン本社敷地で出土した江戸時代の木樋(木で作られた水道管)の調査・分析と当時の史料の解説をお願いしました。

セミナーは、その結果も含め、金子さんと鈴木さんの研究フィールドである近世都市・江戸の水道「江戸上水」と半田に敷設された水道「半田水道」を比較し、当時の木製水道管「木樋」についてお話しいただきました。会場では実際に出土・保管されている木樋も展示しました。

実施報告はHPで公開中です。ぜひご覧ください！



悪天候にもかかわらず、多くの方が参加した



セミナー会場に展示された江戸の水道管(右:東京都水道歴史館蔵)と半田の水道管(左:ミツカングループ蔵)



金子 智さん
東京都水道歴史館
企画調査責任者



鈴木伸哉さん
東京都埋蔵文化財センター
主任調査研究員

日時：2022年11月23日(水・祝)
13:00～15:00

会場：ベルサール九段
(東京都千代田区)
オンライン
(Zoomウェビナーにて配信)

参加者数：106名
(会場46名/オンライン60名)

主催：ミツカン水の文化センター
共催：一般財団法人 招鶴亭文庫

研究紹介

「あまみずドリンク」で雨水の活用を

60号の特集「水の守人」で雨水生活の研究について取材させていただいた福井工業大学教授の笠井利浩さん。今も五島列島の赤島での研究活動を続けつつ、「雨水の水資源としての可能性をより広く知っていただきたい(笠井さん)として、雨水を用いた「あまみずドリンク」の試作と普及にも取り組んでいます。

「あまみずドリンク」は、福井工業大学の敷地内に降り注いだ雨を集めて製造したもので、「あまみずウォーター」「あまみずサイダー」「あまみずソーダ」の3種があります。

「この社会の活動を支える淡水資源の源は『あまみず』です。それを再認識するため、参加型プロジェクト『あまみず飲料化プロジェクト2022 for SDGs』を立ち上げました」と言う笠井さん。興味のある方は下記までご連絡ください。



雨水を用いた「あまみずドリンク」3種

「あまみずドリンク」
メイキングムービーはこちらから



福井工業大学地域連携研究推進センター
Tel : 0776-29-7834 / E-mail : futccrc@fukui-ut.ac.jp

訪問

再訪！ 岩首昇竜棚田(佐渡)



初冬の岩首昇竜棚田と大石惣一郎さん

写真家の梶井照陰さん取材(pp.19-23)のため、4年ぶりに佐渡へ渡った編集部は、61号の特集「水が語る佐渡」でお世話になった岩首談議所の 大石惣一郎さんを訪ねました。

「照陰さんは私たちのイベントをよく手伝いに来てくれるんですよ」と大石さん。岩首昇竜棚田を案内していただきました。

拠点としていた旧岩首小学校の校舎が解体される方向のため、春以降は空き家を拠点とする予定の岩首談議所は、棚田の保存や交流事業の受け入れ、お米の販売、棚田トラストの募集などさまざまな事業を進めながら、これからも集落と島全体の活性化に取り組むそうです。

【お知らせ】 連載「水の文化書誌」と「Go! Go! 109水系」は諸事情により休載いたします。次号をお楽しみに！

ポストカードと書籍をプレゼント!

特集で取材させていただいた方や施設の絵葉書と書籍を抽選で9名の読者に差し上げます。右の「73号アンケート」にWebから回答のうえ、ご応募ください。なお、応募期限は2023年3月31日(金)とさせていただきます。



①アートビオトープ「水庭」ポストカード
5枚セット



②大小島真木さんの大判ポストカード
2枚セット



③松浦寿輝さんの著書『川の光』
(中公文庫 2018)

皆さまからの感想、
情報をお待ちしています!

「水の文化」73号のアンケートにご協力ください。機関誌『水の文化』をより充実したものにするため参考とさせていただきます。

回答はこちらから



<https://forms.office.com/r/xbbvJEsmd7>

アンケート用紙をお持ちの方は
下記へご返信ください。

FAX: 03 (6784) 3056

編集後記

「芸術を語るなんておこがましい。」そんな風に自分自身を決めつけ、それらといつのまにか距離を取ってきていました。しかし、今号の取材を通じ、観て聴いたことに、何度も心が跳ねた自分がいました。芸術における水の多様性の片鱗に触れたことを好機として、表現者が魂を込めて形にされたものにもっと気楽に触れていき、刺激を得ながら、人生の視野を広げていきたいと思えます。(ネ)

大小島さんの生と死の循環のお話を伺いながら、自分は同じ感覚を覚えながらも、その壮大さに怖気づいて考えることから逃げてしまったことを思い出した。芸術家は逃げずにそれを突き詰めて考え、作品として表現している方。そう考えると、尊敬の気持ちで一杯になった。芸術家に敬意を払い、1人の人間として何を感じるか、芸術作品を通じて自分の心とじっくり向き合いたいと思う。(松)

久しぶりに絵の具でお絵描きをしました。子どもの発想の自由さに感動。「これは、海。夜だから黒い青でしょ。でも黄色もぬりたいから、はんぶん朝ね。」どうやって半分にするのか黙って見ていると、青空に黄色い太陽!海には色とりどりの魚たち。彼女なりの表現で、一枚の画用紙に朝と夜が出来上がっていく。芸術って自由だ。目の前の小さな表現者に改めて教えられた気がする。(飯)

近所の大通りの両脇に、鮮やかな赤と青の大きな「手」の彫刻がある。手のひらは笑った「顔」になっていて、当時小学生の私に強烈な印象を残した。後に岡本太郎の作品だと知った。その入り口となる商店街に活気が戻ることを願って設置されたい。思えばこの奇抜な彫刻を、深く考えず素直に受け止めた。その商店街を意識する「きっかけ」になり、アートと聞いて真っ先に思い浮かぶ作品だ。(力)

セノテに潜るシーンが鮮烈で夢か現かわからなくなり呼吸すら忘れた。そんな体験もした今回の特集。当初、「水」を切り口に話を聞くのはやや強引かと案じたのは杞憂に終わり、表現や作品に込めた思いを聞くことができた。「わからないから描くし、描きながら考えている」という大小島真木さんの言葉に芸術の根っこを見た思いがすると同時に、「水の文化」もそうあらねばと思った。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌
水の文化 第73号

ホームページアドレス

<https://www.mizukn.gr.jp/>

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中塾ビル

株式会社 Mizkan Partners

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

発行日

2023年(令和5年)2月初版1刷

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学大学院工学系研究科教授

古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会

陣内秀信 法政大学名誉教授

鳥越皓之 大手前大学教授

制作

今村浩二

松本裕佳

鈴木彩乃

青木広実

小林夕夏

久保悦史

飯野真奈実

編集製作

前川太一郎 編集

中野公力 デザイン・撮影

蔵田 豊 デザイン

執筆

佐々木 聖 (pp.6-9, pp.24-25, pp.28-35)

手塚ひとみ (pp.14-18)

開 洋美 (pp.19-23, pp.40-41)

前川太一郎 (pp.10-13, pp.26-27)

撮影

大平正美 (p.13, pp.24-27, pp.40-41)

川本聖哉 (pp.4-5, pp.14-18, p.30)

藤牧徹也 (pp.28-30, pp.42-47)

渡邊まり子 (pp.22-23)

印刷

中塾総合印刷株式会社